
私たちの季節

優亞

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私たちの季節

【Nコード】

N9899P

【作者名】

優亜

【あらすじ】

中学三年生の主人公・戸山優奈は幼いころに出会った親友に5年前に裏切られてしまった。

それでも何も感じない優奈の心は、一人の少年、伊里大樹によって変わってゆく……。

プロローグ

私が君に出会ったのは丁度10年前の春・・・。

覚えてるかな？

この木の下で友情を誓ったよね。

君が覚えていなくても私はずっと忘れない。

だって、初めて出来た友達なんだよ？

初めて私を見つけてくれたんだよ？

初めて人を信じる事が出来たんだよ？

・・・君も私も忘れるはずなんかないよね。

だって君は私を信じてなんかなかったし
私は君を裏切った。

そう、「あの」出来事がきっかけで
私たちの友情は壊れたんだ・・・

私たちの友情はこんなにも、もろい繋がりでしかなかったんだね。

私は君のせいで、君は私のせいで、
深く深く傷ついて、理由も分かってて、

なのに。なのに・・・

人間って何があってもひとりで生きて行くしかないんだね。

君に出会って分かったよ。

人を信頼して、疑って、裏切って。

信頼されて、疑われて、裏切られて。

「ごめん」も「ありがとう」も言えないまま。

・・・言わないまま。

私たちの季節が終わってゆく。

そして、「私」の終わりが始まってゆく――

プロローグ（後書き）

・・・なんかぐだぐだですいません；；

読んで下さり感謝です！！

これからも頑張りますので応援よろしくですw

出会い

「…………アタシ達、もう一生会う事なんかないんだよね」

”彼女”が私に向かって言った。

「…そうだね……」

私がつぶやいた。

「アタシは一生あんたを恨むよ」

…またこの会話。

「うん。私もあなたを恨み続けるから」

私が答えた。

もう、あなたと私は戻れないんだね

「戸山あ！！何してるんだあ！！授業中だぞ！！」

先生の声で私は目が覚めた。

…そうだ、今は授業中だった。

「全くお前はそんなだからいつまで経っても…」

いつもと同じ先生の説教を聞きながら私はあの夢を思い出していた。

（またあの夢か…）

そう。ここ最近なぜか同じ夢ばかりを見てしまう。

5年前にあったあの出来事を。

何故だか分からないけど…

いや、春だから？

”彼女”とあの会話をしたのは5年前の春。

懐かしくとも何ともない。

昨日の事のように思い出せる。

もう、”彼女”と合う事はないんだよね……

「戸山！！聞いてるのかぁ！？ だからお前は……」

先生の声が教室中に響く。

はつきり言ってウザい。

まあ、寝てた私が悪いのだけど。

「先生、気分が悪いので保健室に行つて来ます」と言つて私は教室を出た。

気分なんか悪くない。

ただ授業が暇すぎただけ。
と言つか、授業どころではなかった。

（なんでまたあの夢を見たんだろう…？）

裏庭のベンチで、ずっとその事ばかりを考えていた。

「アタシは一生あんたを恨むよ……か……」

（もう、全部終わった事なんだよね……）

私は5年前の事をどう思っているのだろうか？

満足？ 後悔？
分からない。

”彼女”とは一生会えない…

いや、会わないから 何を考えても同じか…

……… もうその事は考えないようにしよう。

せつかく三年生になったんだから、
新しい気持ちで新学期を迎えよう。

と、気持ちをリセットした時に

「ビューン!!」

いきなり後ろから
鞆が飛んで来た。

「バコッ!!」

私の頭に直撃した。

「…っ たいなあ…」

私が後ろを振り返るとそこには
一人の男子が立っていた。

髪型は結構長めの黒髪で
身長は165cmぐらい。

どちらかと言うと細身で

第一印象は今流行りのイケメンと言う感じだった。

まあ私は興味ないけど。

「う、ごめん！！大丈夫！？怪我はない！？」

そう言いながらイケメンが私に近づいて来た。

「あ…あの、木から落ちそうになって…
それで……思わず鞆を……」

イライラするしゃべり方なんだけど。

てゆか木？ 木って言った？

「別に。気にしてないし。で、なんで木から落ちそうだったの？」

聞かなくても良かったけど何となく気になったから。

「あ、ああ…えと、それは…その…」

本当にイライラする。

「俺、今日転入してきたから…
迷子になって…それで…」

「木の上って学校眺めてたんだ??」

ホントにイライラする。

「あ…眺めてたって言うか…その…」

「もういいよ。じゃあ私、帰るから」

私が呆れて教室に戻ろうとした時。

「ちょっと待って!!」

「…何??」

いいかげんウザいんだけど。あんたも早く教室に…」

「ねえ、秋山麻友って知ってる?」

…その名前を聞いた瞬間私は言葉を失った。

5年前に絶交したの”彼女”だった――

出会い（後書き）

文章力なくてすみませ↑
よければ感想ください！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9899p/>

私たちの季節

2011年10月8日14時08分発行